



平成20年5月9日

各位

会社名 昭和ゴム株式会社
 代表者名 取締役社長 重田 衛
 (コード番号 5103 東証第二部)
 問合せ先 取締役総務部長 佐藤 一石
 (TEL. 04 - 7131 - 0181)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年12月20日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

(金額の単位：百万円)

1. 連結業績予想数値の修正

20年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,005	62	38	1,339	53.77
今回修正予想(B)	3,900	136	66	2,412	93.60
増減額(B-A)	105	74	28	1,073	
増減率(%)	2.6				
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	3,649	63	244	281	14.65

2. 個別業績予想数値の修正

20年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,682	75	94	1,364	54.79
今回修正予想(B)	3,574	124	123	2,458	95.35
増減額(B-A)	108	49	29	1,094	
増減率(%)	2.9				
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	3,300	60	213	299	15.56

3. 修正の理由

平成19年12月20日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしましたが、平成20年3月期決算において光ファイバー関連事業営業権の減損損失計上、貸付金全額の貸倒引当金繰り入れ及び輸入自動車の未収債権全額の貸倒引当金繰り入による特別損失1,031百万円が発生することに伴い、連結、個別ともに業績予想の修正を行うものであります。

4. 光ファイバー関連事業について

光ファイバー関連事業(以下「本事業」)につきましては、平成19年11月6日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、平成20年3月期の中間期において、営業権の減損損失162百万円及び貸倒引当金繰り入れ300百万円の計上を行いました。その後、当社の業務提携先であるオプティスパン株式会社(以下「オプティスパン」)の本事業の事業展開が停滞して、当社の上市(新製品発売)の目標時期が大幅に遅延しておりますので、平成20年3月期において新たに残存する営業権151百万円の減損損失及び貸付金の貸倒引当金300百万円の繰り入

れを計上いたします。本事業の進捗状況については、平成19年11月6日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」のうち「光ファイバー関連事業の今後について」の中で開示しましたので、オプティスパンの事業推進の状況についてお知らせいたします。

- (1) 株式会社オプティスパン研究所長野工場をパイロットラインの製造拠点として設ける計画につきましては事業方針を変更いたしました。
- (2) 本事業の製品について、平成19年12月末までに産業技術総合研究所のテルコーディア試験及びNTTの嵌合性試験を受ける予定につきまして、テルコーディア試験は同所と同等の試験機関に依頼し、一部の試験を除いて終了しております。NTTの嵌合性試験は、本事業の戦略変更により中止いたしました。
- (3) 「第8回ファイバーオプティクスEXPO」(光通信システム、デバイス、次世代ネットワーク関連機器の国際専門展示会)に出展して、光フェルルル及びコネクタの新製品を発表する計画につきましては、平成20年1月16日～18日の期間内で、当社及びオプティスパンは予定通り出展いたしました。本事業の製品の反響は、メタルフェルルルを出展した三社の中では来場者がトップで、直径0.25mm～2.5mmの微細管及びメタル変換スリーブ型コネクタ等の小型コネクタを高く評価する来場者が多く見られ、その後、サンプル引き合いが増えております。
- (4) オプティスパンの技術提携先であった立命館大学大学院理工学研究科谷研究室及び東京大学生産技術研究所土屋研究室で開発に成功した、金属微細管の新型電鍍製造装置の特許出願、発注及び沖縄工場の建設地の購入につきましては、オプティスパンの資金回収の遅れで遅延しております。

今後の見通し

今後の本事業の計画については、オプティスパンと協議して速やかにお知らせいたしますが、今後の事業環境の変化及びオプティスパンの事業展開等の状況によっては、本事業の事業戦略変更等の経営判断を下す所存であります。

5. 輸入自動車の未収債権の回収について

輸入自動車の未収債権(以下「本未収債権」)につきましては、平成19年12月24日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、平成20年3月期の中間期において、貸倒引当金591百万円の計上を行いました。本未収債権は平成20年5月9日付「子会社で発生した未収債権の回収遅延に関するお知らせ」に基づき平成20年11月までに全額の回収を予定しておりますが、保守的会計の観点から、中間期での計上額を除く590百万円を貸倒引当金に繰り入れ計上し、特別損失として計上いたします。

なお、詳細につきましては平成20年5月9日付「子会社で発生した未収債権の回収遅延に関するお知らせ」をご覧ください。

6. その他

平成20年3月期の決算短信発表時に平成19年4月13日に開示いたしました「資金投入計画及び進捗状況」についてその後の状況(オプティスパン株式会社への貸付金の使途を含む)を開示する予定であります。

以上